

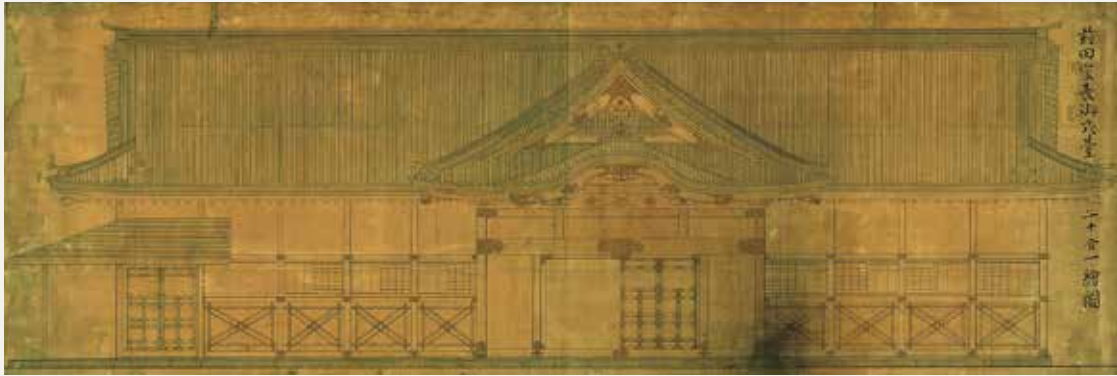


金沢城
二の丸御殿
復元整備

二の丸御殿の概要

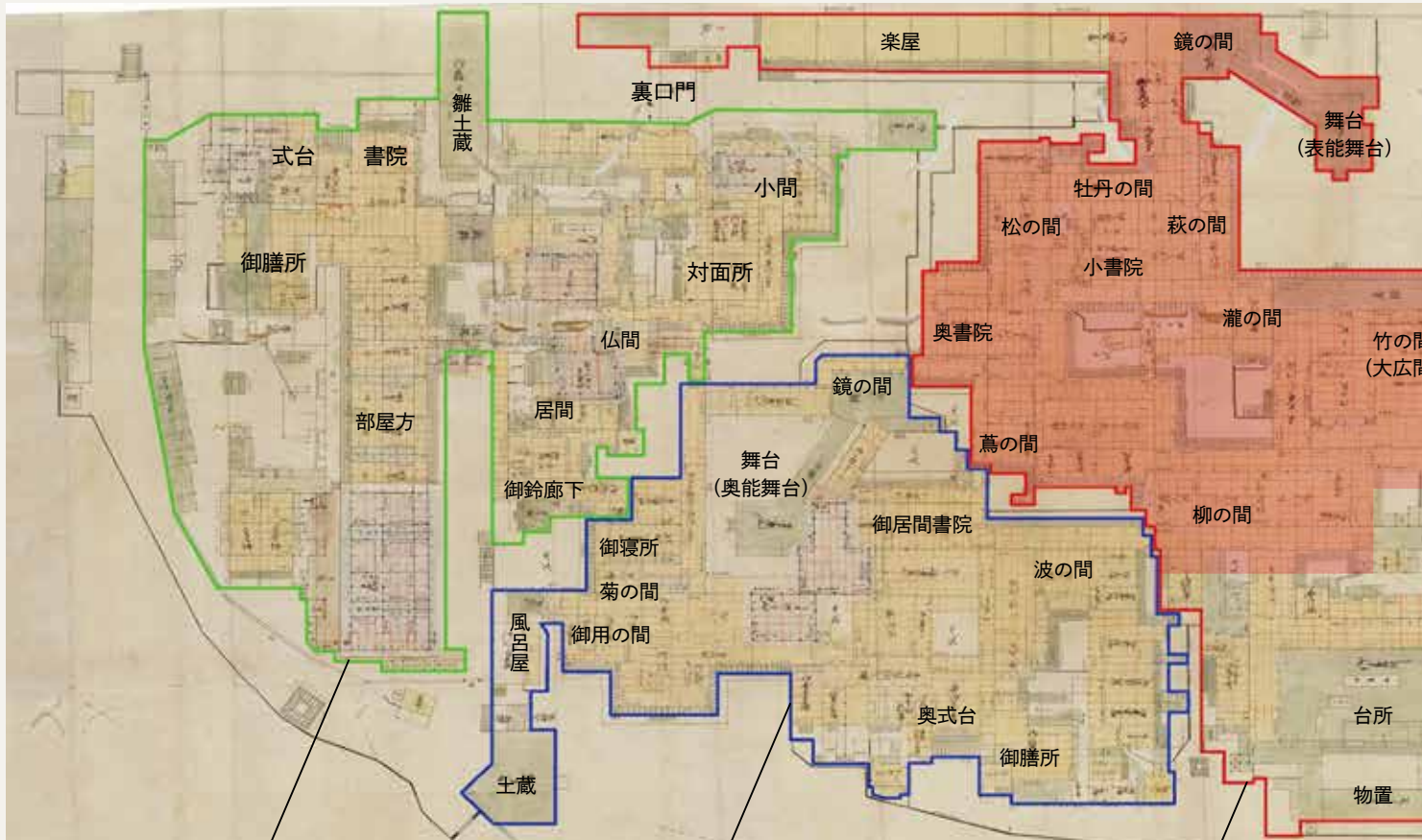
金沢城は江戸時代を通じて最大の大名、加賀藩前田家の居城であった近世城郭です。初期の城郭は本丸を中心とした城づくりが行われましたが、寛永8年(1631)の大火を機に城の中心は二の丸に移り、同年には大規模な二の丸御殿が創建され、以後、藩主の住まいや政務の場として城の中枢を占めていました。

二の丸御殿は江戸時代においても二度の火災による焼失・再建を経ながら、幕末・維新时期まで加賀藩の政治・文化の中枢としての役割を担い続けました。明治4年(1871)の廃藩後は軍隊の管轄に置かれ兵舎として利用されていましたが、明治14年(1881)に失火により焼失し、近世以来の威容は失われました。



江戸時代後期の御殿の玄関・式台を描いた立面絵図「金沢城二之丸御式台絵図」(金沢市立玉川図書館蔵)

御殿は約3,200坪の規模で60を超える部屋で構成される城内最大の建物で、儀礼や政務の場で玄関や大広間、書院、能舞台などが置かれる「表向」、藩主の日常生活・執務の場である「御居間廻り」、女性たちの生活の場である「奥向」の3つに区分することができます。数多くの飾金具や著名な絵師による障壁画などの装飾に彩られた、豪華絢爛な建物であったことが、江戸時代後期の史料等により明らかになっています。



【奥向】約700坪
女性たちの生活の場

【御居間廻り】約700坪
藩主の生活・執務の場

【表向】約1,800坪
儀礼や政務の場

復元整備の意義

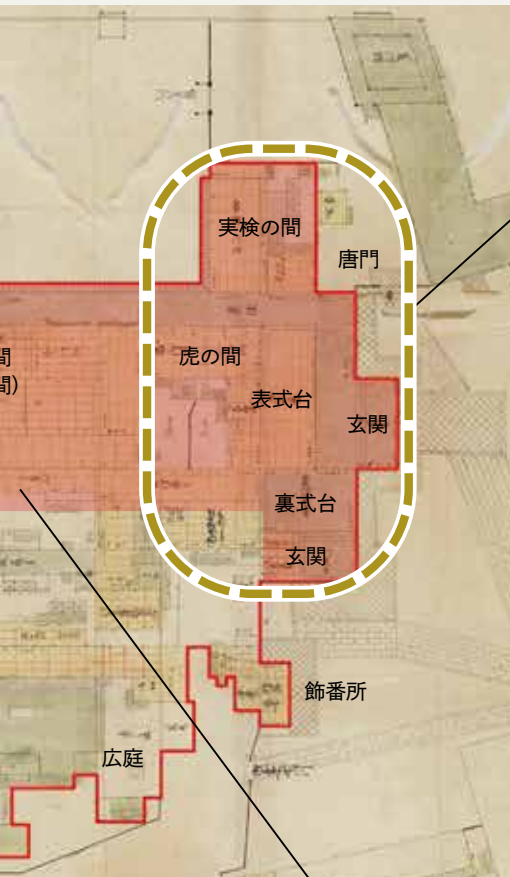
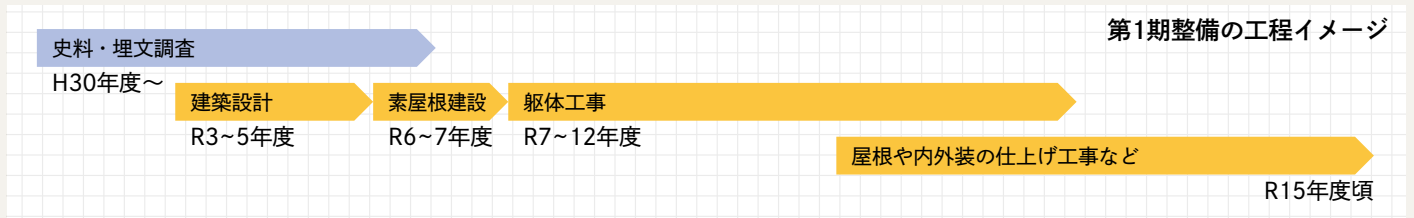
石川県では、本県の歴史文化の象徴ともいえる金沢城公園において、本物志向の姿勢で復元整備の取り組みを進めてきました。

二の丸御殿の復元は、これまでの金沢城復元の総仕上げともいえるもので、金沢城の価値や魅力の向上、伝統技術の次世代への継承、令和6年能登半島地震で被災した職人の生業再建への寄与など多面的な意義を有します。



整備の進め方

整備工事は建設現場を覆う仮設の建物である素屋根の建設から始まりました。令和8年4月に「表向」第1期整備工事の起工式を執り行い御殿本体の工事に本格的に着手しました。建物の基礎や柱・梁の組み上げ、屋根の下地などを行う躯体工事を令和12年度(2030)までに完成させ、その後も屋根や内外装の仕上げ工事などを順を追って進め、令和15年度(2033)頃の第1期整備工事完成を目指します。



第1期 復元整備 範囲

二の丸惣絵図(三歩基) (金沢大学附属図書館蔵) に加筆

【復元整備範囲(表向の主要部)】
約1,000坪

金沢城年表<二の丸御殿関係>

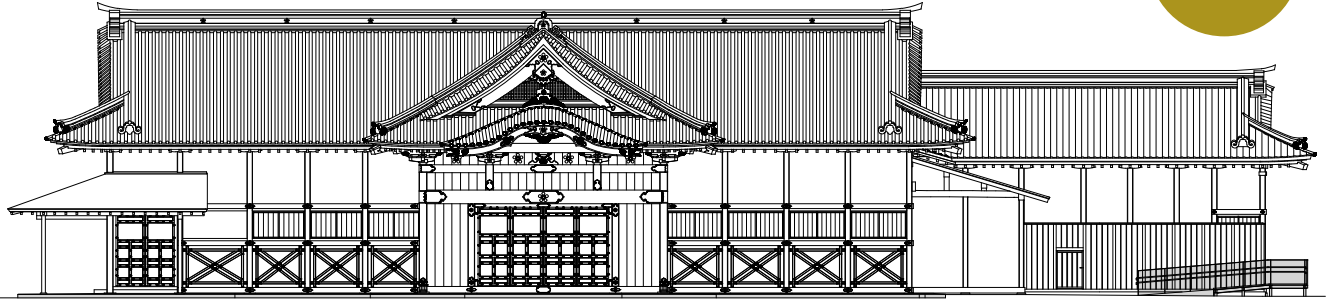
慶長 7年	1602	天守が落雷で炎上する
寛永 8年	1631	本丸御殿の焼失を機に、二の丸に御殿を創建
宝暦 9年	1759	大火により御殿を含め城の大半が焼失
宝暦 11年	1761	御殿の再建に着手する
宝暦 13年	1763	10代重教、再建した御殿に入る
安永 2年	1773	御殿の玄関・式台・虎の間等に着手し、翌年竣工
天明 8年	1788	石川門を再建する
文化 5年	1808	大火により御殿が焼失、再建に着手する
文化 6年	1809	12代斉広、再建した御殿に入る
文化 7年	1810	御殿の造営が完了する
明治 2年	1869	14代慶寧、御殿から重臣本多家の屋敷に移る
明治 4年	1871	廃藩置県により、御殿は兵部省の所管となる
明治 14年	1881	旧二の丸御殿焼失
明治 31年	1898	二の丸跡に第九師団司令部庁舎が建設される
昭和 38年	1963	二の丸跡に金沢大学法文学部校舎が建設される
平成 13年	2001	金沢城公園が開園する
平成 30年	2018	金沢城二の丸御殿調査検討委員会設置
令和 3年	2021	復元整備に向けた基本方針を策定 金沢城二の丸御殿復元整備専門委員会設置
令和 7年	2025	二の丸御殿整備工事起工式
令和 8年	2026	2月、建設工事の素屋根完成 4月、第1期整備工事起工式

復元整備の概要

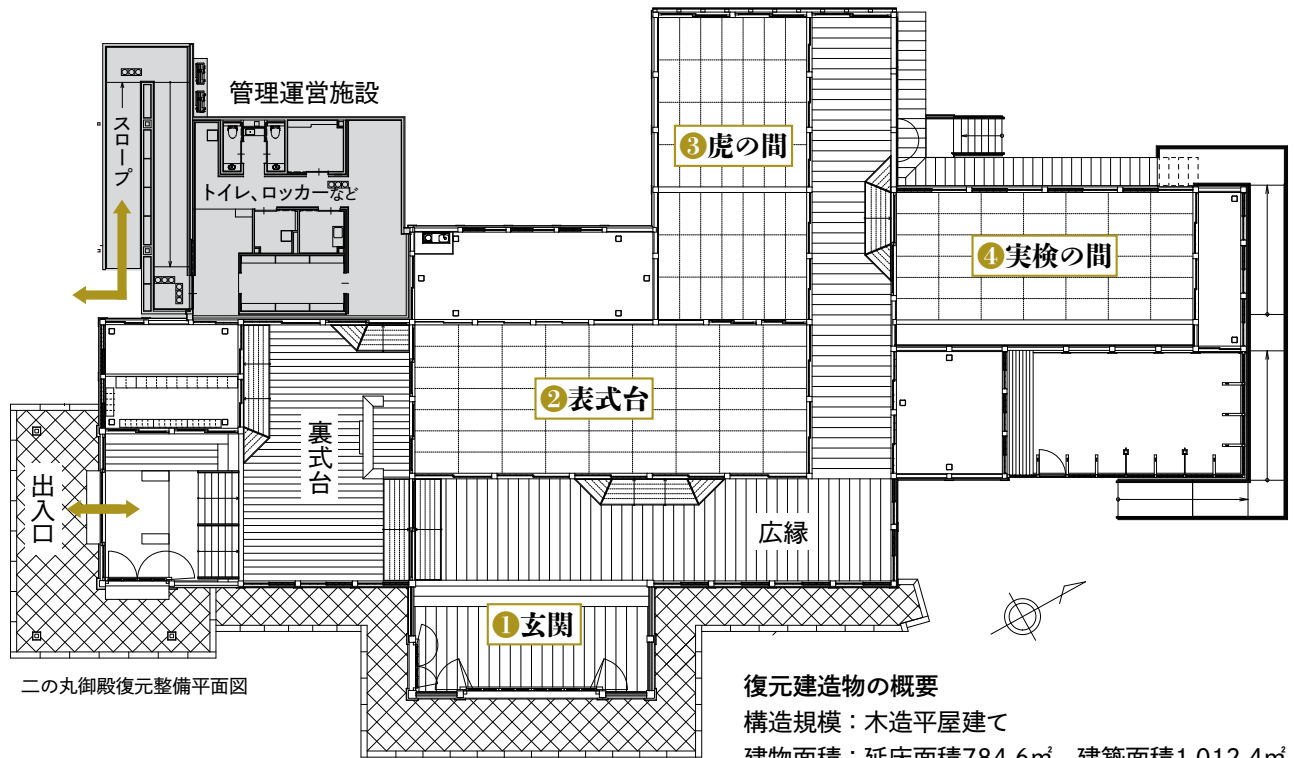
復元整備は、江戸時代後期の史料を参考に、史実を尊重した木造による伝統工法としたうえで、バリアフリー対応や安全性の確保、冷暖房の整備など、全ての方が安全かつ快適に利用できる整備を行います。

利活用においては裏式台側の玄関を出入口とし、御殿の作りや、史料を手掛かりに再現された障壁画で彩られた空間を観覧いただける整備を行います。

第1期
整備範囲



二の丸御殿復元整備立面図(東面)



二の丸御殿復元整備平面図

復元建造物の概要

構造規模：木造平屋建て

建物面積：延床面積784.6㎡、建築面積1,012.4㎡

(管理運営施設部分 延床面積108.8㎡)

最高高さ：12.4m(式台棟)

主な仕様

- 外部 屋根…銅瓦葺き(本瓦葺き、棧瓦葺き)、黒チャン塗り、
 檜葺き、柿葺き
 外壁…漆喰塗、板張
 建具…棧唐戸、帯戸、板戸、捲り障子、窓板戸、明り障子
- 内部 天井…折上格天井、格天井、棹縁天井、張付天井
 内壁…白大津仕上、板張、張付壁(障壁画)、中塗仕上
 床…板張り(春慶塗)、畳敷
 建具…杉戸、舞良戸、板戸、襖、腰障子、欄間障子

- 構造 基礎…礎石(戸室石切石、小叩き仕上げ)
 軸組…木造伝統工法
 補強…マットスラブ基礎(鉄筋コンクリート造)、
 制振装置、鉄骨補強
- 管理機能等
 照明設備、火災報知器・スプリンクラー等防災設備、
 空調設備、トイレ(男子・女子・バリアフリー)、
 授乳室兼救護室、バリアフリースロープ



外観の特徴

御殿の屋根は黒色の塗装が施された銅瓦で葺かれ、前田家の家紋「梅鉢紋」^{うめばちもん}や、数多くの飾金具が施されています。

玄関は総ケヤキ造りで、梁の上には、防火の願いを込め、水に棲むサイを題材とした「波に岸」^{なみにき}の彫刻が設置されていました。



① 玄関、広縁

玄関の天井は格式の高い折上格天井が採用され、格縁は黒色の漆塗りで仕上げられました。

玄関から続く廊下は広縁^{ひろえん}と呼ばれ、床は赤みがかった透明の漆塗り「春慶塗り」で仕上げられました。



② 表式台

^{おもてしきだい}表式台は63畳の畳敷きの空間で、客人を迎えるための儀礼が行われました。

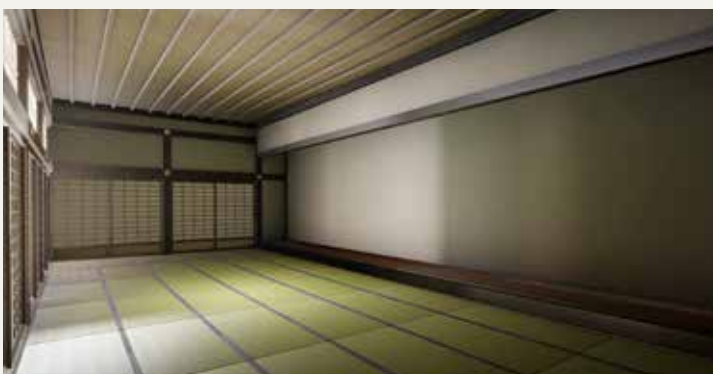
壁や襖には金箔が張られ、永遠に続く繁栄を象徴する青々とした葉を茂らせる若松を題材とした障壁画が描かれました。



③ 虎の間

虎の間は竹の間(大広間)で儀礼が行われる際の待合の空間で、加賀藩出身の絵師、岸駒^{がんく}による虎の障壁画が描かれていました。

御殿の障壁画に虎を描くのは、主人が猛獣を従えるほどの強大な権力を持つことを示すためと言われています。



④ 実検の間

^{じっけん}実検の間は、儀礼が行われる際に警護の藩士が控えた他、様々な用途に使用されました。

復元整備にあたっては、講座や文化イベントなどに活用できる空間として整備します。



躯体工事の概要

令和8年度(2026)から本格的に始まる躯体工事は、御殿本体の礎石などを据える石工事、柱や梁、屋根の下地などを作る木工事、土壁を作る左官工事、木材に漆を塗る塗装工事といった伝統的建造技術による施工のほか、耐震性を高めるためのコンクリート基礎や鉄骨柱などの補強工事を行います。

■工事内容

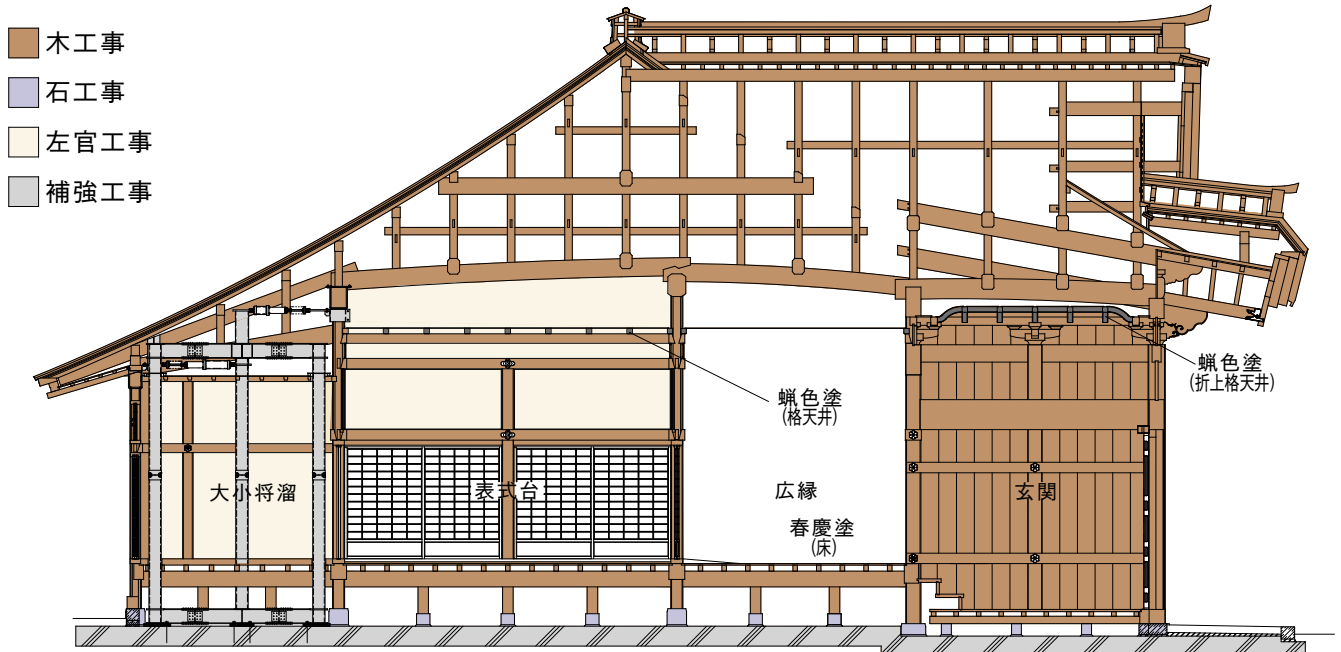
石工事：礎石、束石、地覆石等

塗装工事：蝋色塗(格天井)、春慶塗(床)等

木工事：柱、付土台、床組、小屋組等

補強工事：基礎、鉄骨柱・補強金物等

左官工事：小舞、荒壁、中塗、上塗等



二の丸御殿復元整備断面図(東西方向)

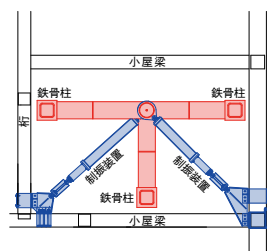
バリアフリー対応、安全性の確保など

バリアフリー対応

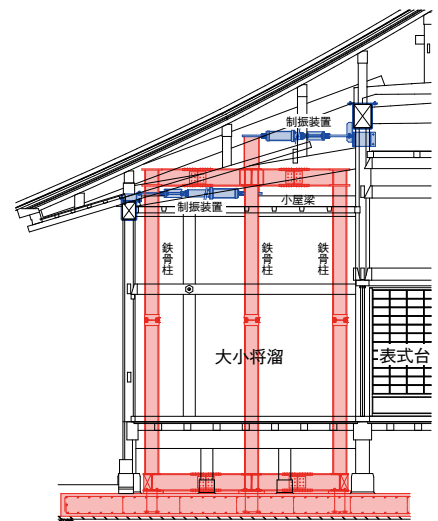
建物入口に車いす対応スロープを設けるほか、バリアフリー対応のトイレ等を整備します。

安全性の確保

大規模地震でも倒壊しない耐震性を確保するため、復元建造物としての構造や景観に配慮したうえで制振装置や鉄骨柱を付加し、建物を補強します。また、スプリンクラー設備や屋外放水銃などを備え、万が一の火災に備えます。



天井上制振装置取付平面図



大小将溜 断面図

天井裏や床下の空間を利用した耐震補強

障壁画の制作

江戸時代後期の御殿の障壁画制作に携わった加賀藩出身の絵師「岸駒」は、多くの弟子と共に制作にあたり、表式台や虎の間などの障壁画を担当しました。

岸駒が描いた絵の意匠を示す下絵等は残されていませんが、復元整備にあたり各地に残された岸駒の作品や岸派の類例を調査し、往時の姿を推定し虎の間や表式台の障壁画を制作します。

令和7年度(2025)までに原寸大の下絵が完成し、令和8年度(2026)から実際に御殿に設置する「本画」の制作を進めます。



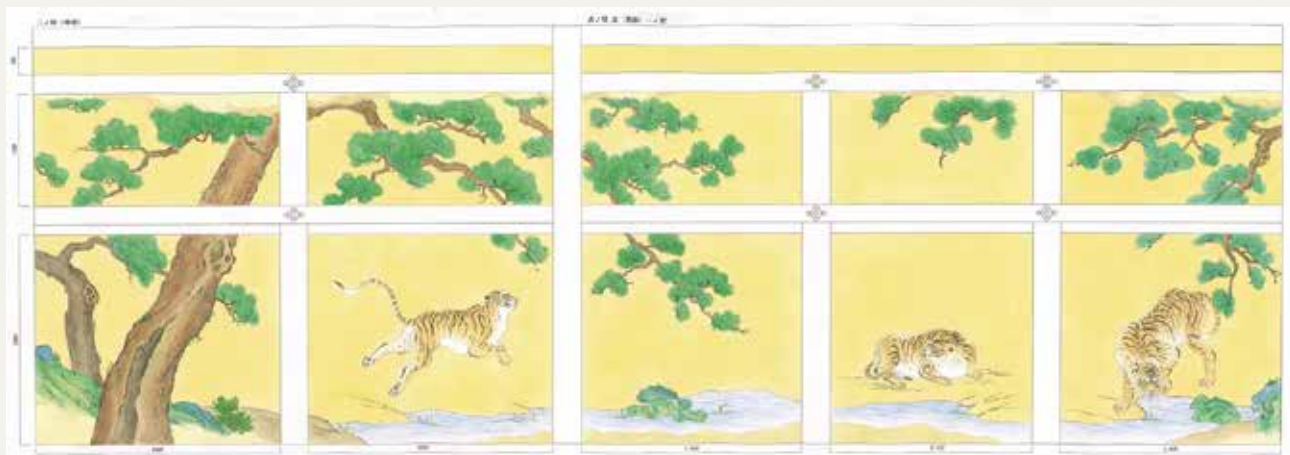
岸駒の作例
宮川祭曳山颯々館楽屋襖「松虎図」
(長浜市宮司東町自治会蔵)



原寸大の下絵の確認作業状況(令和7年度)

虎の間の障壁画

虎の絵を得意とした岸駒が描いた虎の間の障壁画は、全体に金箔が張られ、「走る虎」、「水を飲む虎」、「うづくまる虎」が描かれていたことが文献から判明しています。金色の壁に描かれる迫力ある虎は、復元整備される二の丸御殿の見どころの一つです。



虎の間の障壁画の下絵(令和6年度制作)

県産材料の活用

復元整備に使用する木材は、史実を踏まえ、能登ヒバやスギなど石川県産木材の使用に努めます。

また、障壁画に使用される金箔など、石川の伝統工芸により製作された材料の使用に努めます。



能登ヒバ



杉



金箔

「見える金沢城」

御殿の復元は長期間にわたる取り組みになります。このため、工事期間中においても積極的に情報発信を行い、石川の伝統技術や伝統工芸の技を用いて復元されていく過程を多くの方にご覧いただけるよう取り組みます。



建設工事の様子を配信



工事現場の仮設の囲いを活用した情報発信

VR金沢城



鶴の丸休憩館内のシアターで、二の丸御殿をVR技術で再現した映像をご覧いただけます。園内でVRを楽しむことができるスマートフォンアプリも配信しています。

工事の様子を配信



素屋根の中などで行われる建設工事の様子を、二の丸広場に設置した映像モニターやSNSで配信します。

体験イベント



復元工事の工程に合わせ、工事見学会や、職人による解説付きの伝統技術の体験イベントを開催します。

デジタルアーカイブ



伝統技術の職人の、匠の技を記録したデジタルアーカイブを作成、公開し技術の研鑽・継承に活用します。



金沢城公園公式ホームページ
<https://shiro-niwa.pref.ishikawa.lg.jp/kanazawa-castle/>



二の丸御殿寄進事業(天井板への記名)のご案内
<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kouen/siro/ninomarukishin.html>

復元整備に関するお問い合わせ

石川県土木部公園緑地課金沢城二の丸御殿復元整備推進室
〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
TEL. 076-225-1774 E-mail: e251800a@pref.ishikawa.lg.jp